子爵 渡邊國武 著者

哲學字彙一家言提要

內篇 哲學神髓

外篇 哲學雜組

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

指定一冊三十提要

内海　松下紹隆
外海　松本教廻

本書ヲ予ノ多年印度希臘稱西等ノ各教ノ
系統ヲ研究セラルヽ結果トシテ之ヲ一ノ
宗教ト見做シ但佛教ヲ以テ東西
古今ニ亙ル諸宗教各宗派ノ一切万有ノ実在ヲ
含ム一貫統轄ノ全宇宙
ヲ開顕セル應用ノ倫理学形而上
学書ナリ之ヲ読ムノ人宗教哲学ノ蘊奥ヲ発揮シ又
外教ヲ以テ教廻ニ誤ラルヽヲ免レ佛教ハ宗教ノ
尊ノ極理ヲ備ヘテヲラルヽ稚文ナ館者ヲ収
ム一読以テ東西古今ニ於ケル諸宗教各宗派ノ
ある所ノ脈絡ト要領トヲ了解スルヲ得ヘシ

一大青年

東京帝国大学図書之印
東京帝国大学農学部図書之印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

哲学十神髄一名佛教真實義

東京傳製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

小引

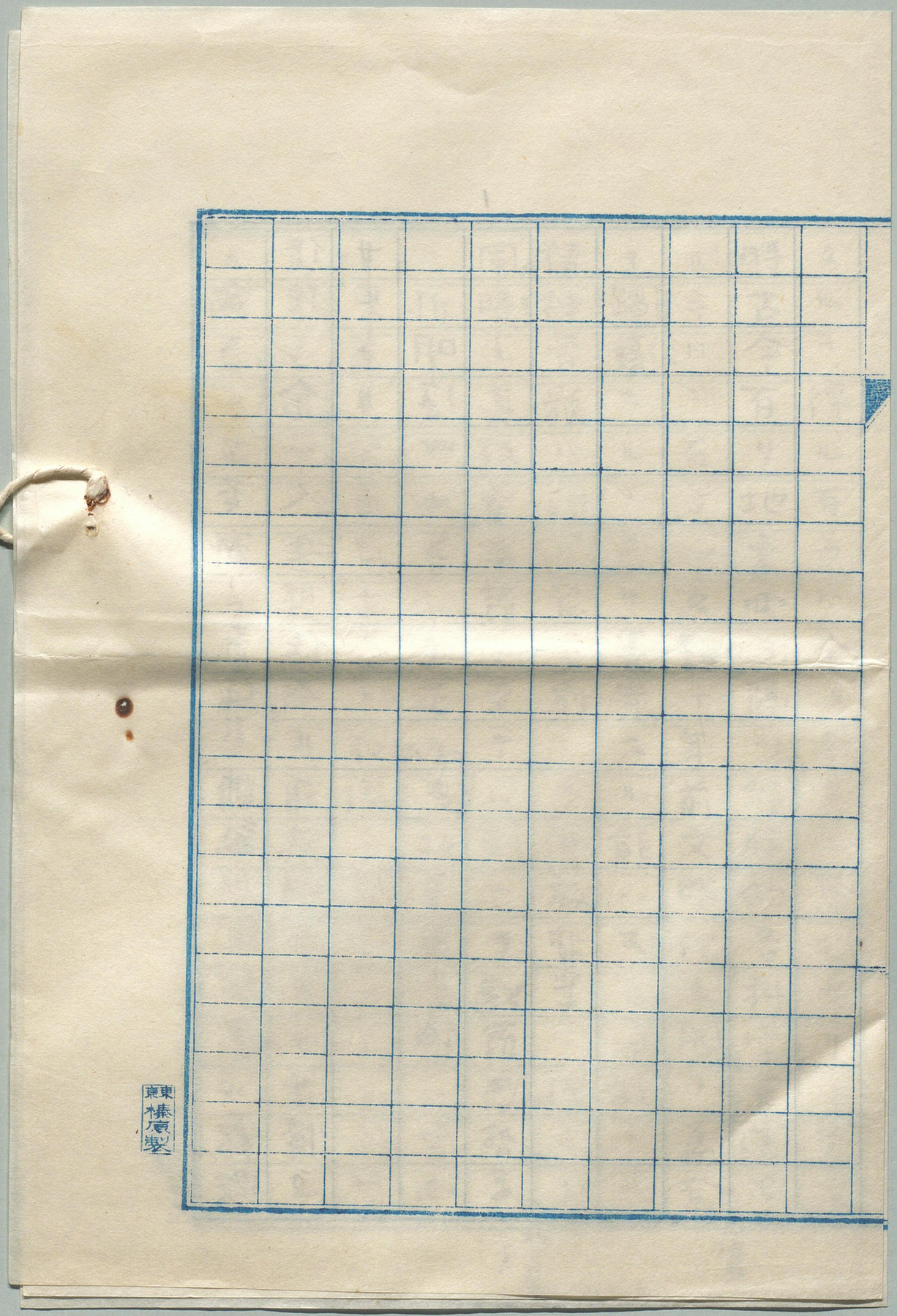
印度哲学別ニ于仏教、哲学中ニハ、高尚ナル
含有スト雖モ只之ヲ説ク所ノ経論皆宗教的謎
語若シクハ煩瑣的(術作)論(解決ニ係ル)ヲ以テ(シ)テ(ア)ル(ル)カ
為メニ其真理ハ(ニ)天下ニ明ニ(ラ)カナラス(ス)蓋シ(余)
憾難歟ヲ別ニ(ニ)シテ(テ)仏教哲学神髄一着ヲ
呈スル其精神骨髄ヲ印度哲学ニ
採リ欧洲哲学系統ノ式様ヲ假テ之ヲ講述セル
者ナリ幸ニ(ヒ)一閲ヲ賜ハ(ハ)ヽ本講述ニシテ東西ノ
思想ヲ疏通シ古今ノ智識ヲ融會スルノ一器具

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

タルヲ得ル有ラハ余カ幸実ニ甚シキ此リト雖モ
時古今ノ経験的各科学ヲ経過セル
ニ在テ一々数十年前文明未開ノ蕃族ヲ蹈襲スルノ愚ヲ畏守スル能ハサルカ故ニ其
精神骨髄ハ印度哲学別ニ採ルト雖モ
同時ニ其枝葉末節ニ至テハ則之ヲ欧羅巴ニ於テ
ノ思想ヲ疏通シ古今ノ知識ヲ取捨折中セル者タル
ヲ断言スルニ憚ラス随テ
稍本講述ノ眞理

東京原敬

ニ合スルヤ否ヤノ責任ハ余一人之ニ任スヘシ
併テ余カ本書ヲ著ハスニ開祖タル釈迦
牟尼ノ心ヲ明言スルヲ憚ラサルヲ
明治四十年
著者識



国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

意智情信
ノ三和的四行
作用ナリ

第四部　信倫

第二十五章　哲学研究ノ結果

純粋哲学ノ研究ニ於ケル四種方面及ニ各四種要素ハ皆全宇宙一切万有ノ実在的原理ナル関係自性ノ発動効果ヲ表現スル所ノ契機的方面ニ於ケル四種要素ノ発動ニ外ナラス而シテ哲学ニ於ケル倫理哲学形而上学審美哲学ノ各四種ノ倫理ハ宗教哲学中ニ包含スル所ノ自軍独孤行スルヲ得可キ者ニ非ルヲ以テ根本的ニ合同一致シテ本論述第一章ニ所謂実行同

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

題ノ決定ヲ指導スヘキ可ラス

純粋哲学中歸納的研究ニ於ル主觀的方面客觀的方面柳得的方面ト他得的方面ノ四種方面及ヒ主觀的方面ノ換要ニ於ル直觀的認識力及附別的認識力及ヒ聯想的認識力ノ四種要素能的方面ノ換要ニ於ル表有的存立力待他的存立力及判的存立力及ヒ關同的存立力ノ四種要素能的方面ノ換要ニ於ル主觀ニ於ル柳得的方面ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力肯定力主客兩能力肯定力主客兩能力否定力主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力肯定力及ヒ主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力否定力及ヒ主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力否定力主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力肯定力主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力否定力主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力否定力主客兩能兩偶ニ於ル主觀ニ於ル客觀ニ於ル有力肯

甲ト乙的表現契機ト甲ト乙ト倶ニ的表現契機トヲ
乙倶ニ的表現契機トヲ甲ト乙倶ニ的表現契
機ノ四種要素表徳的方面ニ於ケル理ヲ有カ
契機ヲ力表定力理ヲ有カ契機ヲ力表定力
理ヲ契機而倶ニ有力表定力ナル理ヲ契機而
倶ニ力表定力（ノ中特ニ要素ヲ）ナル情的方面ニ於ケル理ヲ有カ
契機ヲ力表定力理ヲ有カ契機ヲ力表定力
理ヲ契機而倶ニ有力表定力ナル理ヲ契機而
倶無力表定力ノ四種要素ガ其道理ヲ一貫
透徹シ其精神ヲ脈絡協適ニシテ分裂ノ弊障

東棟原蔵

憧有ルヲ見サルハ等シク十六章ノ條下ニ於
テ之ヲ後的ヒヲ而モ十六章ノ應用ヲ
於ル意智情倫的作用智的作用情的作用及
ヒ信的作用ノ主觀的四種作用ヲ契機的方
面ノ中種要素ヲ起源ト作ル倫理哲学カ含有ス
ル所ノ自客他客倶ニ他客倶ニ而他箪客倶ニ及ヒ他倫
倶ノ四種ノ倶形而上学カ含有スル所ノ唯
心論實在論二元論及不可思議的一元論ノ
四種ノ倫審美哲学カ含有スル所ノ主觀倶
客觀倶主客両觀應倶及ヒ主客両觀真否

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

従ノ四種ノ徳ナリト宗教哲学カ会有スル所ノ
ノ前無論ニ宇宙論有神論ナリト此神論ノ四
種ノ論ハ皆契拇的ニ前ニ於ケル四種要素ノ発
動ニ起因スル所ノ（其ノ）結果ナリ（ト）
言等二十二章等二十三章第二十四章ニ於
テ之ヲ（既ニ）明カニセリ之ヲ従ヒ（テ）倫理哲学形而
上ニ（於テ）（今ヤ哲学ハ其ノ結果ノミヲ）本論ノ第一章ニ於テ
定ヲ指示セムトスルニ当リ倫理哲学ノ会有スル所
ノ各四種ノ倫徳ヲ把テ両ヒ芸ニ之ヲ検覈
スルニ此四種ノ倫徳即チ四種ノ観察的断
定ハ畢竟只一ノ関係（ヲ）前面ヨリ右側者ニクハ
後面ヨリ右側者ニクハ（ヲ）観察シテ只其観察（セシ）
ノ一方面ニ拘泥（ニシテ）（ニ）外ナラス（ス）（ヲ）（ル）故ニ前
面ヲ観シタル所ノ後面無キヲ（ヲ）（ニ）（ト）（ス）ルカ如シ
又後面ヲ観シタル所ノ前面無キヲ（ヲ）（ニ）（ト）（ス）ルカ如シ
右側無ク右側ヲ観シタル所ノ左側無キカ如
ク四種ノ倫徳ノ観察的断定ハ皆互ニ
相関係シテ存ス（ルヲ知ル者ニシテ）各自個々ヲ別々ニ事務孤

東棟原蔵

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

行スル ヲ得可キ者ニ非ス 若シ單獨孤
行セムトスル時ハ 各自己ノ倫理即チ
自己ノ立脚地ヲ保チ之ヲ破壊スル者
タルヲ免レサル歟 理明瞭ニシテ疑フ可ラ
ス故ニ主的作用智的作用情的作用ヲ信
的作用倫理ノ要求ヲ滿足セシテ人生ノ最
大幸福ヲ完全ニ受領ス可キ即チ本論述
第一章ニ所謂実行問題ノ決定ヲ指ス
茲ニ於テ小 各人皆 此根本的倫理ニ溯リ全宇宙
一切万有ノ実在的原理ナル 偶像自性ノ 現

法ヲ契根等ヲ完全ニ 滿ニ了解
シ 自己ノ偶像自性ハ則チ自己ニ到達シ 自己ノ
崇ノ最高地位ニ到達シ 自己ノ善ヲ行ヒ 真ヲ去リ
美ヲ知リ 和待ナル 自己ト他待ナル 神又ハ
佛ト妙合スルヲ 得ルナリ 之ヲ 名ケテ 人
ニシテ 神ナル者ト謂ヒ 神ニシテ 人
ナル者ト謂フ 故ニ 英雄豪傑ト謂ヒ 神仏
佛言落ト謂ヒ 又ハ 神ニシテ 人ニシテ 神ナル者
神人ト謂フ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

第四部
第二十四章 宗教哲学検覈ノ四種要
素
結論
第四部 附論
第二十五章 哲学上ニ於ル種々ノ概
念
第二十六章 東西古今ニ於ル哲学宗
教各系統

哲學神髄目錄 終

東京帝國大學圖書之印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

ルニ因テ一事物ハ一事物トシテ存立シ此
一事物カ此一事物ト非ル所ノ他一切ノ各事物ハ他
一切ノ各事物トシテ存立スルヲ得ルノ理
精密ニ之ヲ経験シ深重ニ之ヲ看察スレハ
之ヲ了解スル甚タ難キニ非ルナリ世人察
セス全宇宙一切万有中ノ各事物ハ全ク彼
此互相ノ関係ヲ離レテ個々別々ニ單存孤
立スルヲ得ルカ如ク考フルハ実ニ迷解
ノ甚シキ者ナリ印度ニ於テ釈迦牟尼カ首
唱シタル所ノ佛教ニ於テ因縁生ヲ以テ其
宇首ト為シタル如キハ全ク此道理ヲ解釈
シタルニ外ナラズ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

力ニ因リ先ツ左ノ左メル所以ノ特徴ヲ認メテ直覚的ニ之ヲ認識スルニ非レハ次シテ左ト右トヲ聯絡シテ一斉ニ之ヲ思惟スル能ハサルヘシ特ニ左右両項ヲ認識スルニ於テ此ノ如クナルノミナラズ全宇宙一切万有ノ中ノ各事物ヲ各事物トシテ之ヲ認識スルヲ得ルノ理全ク同シ全宇宙一切万有ノ中ニ於テ一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ヲ認識スルニ因テ一事物ヲ認識シ一事物ヲ認識スルニ因テ一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ヲ認識スルヲ得ルノ理精密ニ之ヲ経験シ深重ニ之ヲ考察シテ以テ之ヲ知ルヲ得可キヤヲ△世人察セス往々吾人カ全宇宙一切万有中ノ各事物ヲ認識スルハ単ニ直覚的認識力ノミニ因テ之ヲ認識スルヲ得ル手ノ如クニ考フルハ実ニ思ハサルノ甚シキ者ト言ハサル可ラス夫レカントガ純理批判ニ於テ直覚力ニ附随スル感性模糊タル表像力ヲ以テシタルガ如キハ紡毋ト

△之ヲ要スルニ此主観的方面ニ於ル認識カヲ彼ノ主観ト客観トノ関係ニ於ケル主観カ客観ニ対像シテ客観中ニ於ル一ノ者ト他ノ者トノ関係ヲ認知スルノ力ナリ

東京 株原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

ニ直覚力ト雖モ又決シテ単歩孤行スル能
ハザルノ理ニ瞥見シタル
主観的方面ガ客観的方面ニ対スル所ノ関
係トシテハ単ニ之ヲ認識スルノミニ止マ
ラス若シクハ意欲シ若シクハ好悪スル等
ノ作用有リト雖モ其理全ク認識力ト同
一ナルカ故ニ今茲ニ之ヲ論セズ類推シテ
以テ之ヲ知ルヲ得可キナリ

東京 榛原製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

主観的方面ニ於ケル認識ノ力ノ㊀主観ト客観トノ
関係ニ於テ主観カ客観ノ関係ニ入ルニ
一ノモノト他ノモノトノ関係ニ入ルトハ
客観的方面ニ於ケル存立カ主観トノ
関係ニ於テ客観カ主観ニ関係シ客観中ニ於ケル
一ノモノト他ノモノトノ相関係スルコトナリ
相待的方面ニ於ケル肯定カトハ主観ト客観トノ
関係ニ於テ主観ト客観トノ互有並立的関係ヲ
的関係ナリ
絶待的方面ニ於ケル否定カトハ主観トノ客観トノ
関係ニ於テ主観ト客観トノ互有並立的関係ヲ否定スル所ノ
㊁的関係ナリ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

A dust, a stone, a tree, a grass, a birld, an animal, to exist
as a dust, a stone, a grass, a tree, a birld, an animal, there
must be other somethings, which exist againt them.

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

小引

昔獨逸のカントのクリテイルライン
ルニユーンフト」を三号書物より出す所の其理屈
と道解そうりうがものいのお国つくプロレゴメ
ナとゝいふ簡単なかめと出しそゝいふ事でお
私方のお先まず一家言と申しまして誠をこの全く
学一家言程要そもそものそ甚だ
遠ふて居る一体私方を此方の言論そうて故学
そうして難き入り難きむづかしーんものでも無ん
のでありのまず官まで実業家
ゟ安自心立命のらめな知らぬ
でありのな故学話そうゝ
でほるうらタヤむづかしーん術話とも用いさの
考つてそうと甚をそのうこならぬうち故学
の故のな。そらめ所之官吏
も向つく相談せねそならぬ其
家俗解でありの結局を或る女人
つさのと側な者な所の連花術な話一緒に書いて

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

の連祀ではないのであるから其精
らぬまでも御経をよんでから一
体我まゝをもつうんぬものよ
うなのを（前の申）と云ふ迷のカニトニモ真実
エルリングやヘーゲルではなく
行ふ処（俗解）まで官まで笑家でおなじのこと
も知らぬ（新の）人でもつのうのやうに斯く
申す此講述（講述）一家言据（俗解）の講述者即ち私
者をいう先明治十方世界念仏衆生摂取不捨
（なのかの）誰でもつのうらぬ人も来てるく此の宜しい御で
此後も異変行ふ所の人々も来て後語にてその
が宜しい

明治四十年

講述
清沢
満之

小引

印度支那及ニ其他東洋諸國民ノ哲学宗教中ニ
ハ往々高尚深遠ナル真理ヲ含有スト雖モ地ハ
東西ヲ隔シ時ハ古今ヲ障テ其説明ハ全ク形式
ヲ異ニシ其研究ハ全ク方法ヲ同フセサル所有
ルカ為メニ其真理ハ終ニ天下ニ明ラカナラス
シテ以テ今日ニ至レリ今ヤ世界ノ文藝交通カ
長足ニ発達セル此一大盛時ニ際会シテ東洋各
國民中一人ノ秀ノ振テ起テ東西ノ思想ヲ疏通
シ古今ノ智識ヲ融會貫通シテ以テ哲学上ニ於
ル一ノ新系統ヲ立テ一ノ新組織ヲ起シ今日ノ
世界ニ大歩調歩スル者有ルヲ無キハ蓋此二十
世紀ニ於ル学界ノ一大缺典ナリト言フ可キナ
リ是ニ於テ乎余自ラ量ラス茲ニ哲学一家言一
巻ノ草稿セリ其目的ト為スル所ハ第一ニ東西ノ
思想ヲ疏通シ第二ニ古今ノ智識ヲ融會貫通シ
第三ニ彼此ノ長短ヲ比較シ考量シ第四ニ長ヲ
取リ短ヲ捨テ東洋ノ思想ニ偏セス又西洋ノ成
説ニ拘泥セスシテ以テ宇宙ノ大観ノ極メ学界
ノ衰頽ヲ一新セムト欲スルニ在リ然リト雖モ

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

余ハ廿壮ノ日國家多事ノ秋ニ際會シテ危難ノ中ニ奮励シ死生ノ間ニ出没シ其英俾獨三國語ヲ修メテ哲學諸家各系統ノ要領ヲ了解スルヲ得タルハ蓋知命ノ歳以後ノ閑事業ニ屈セリ書ヲ読ムヲ博カラス文ヲ作ルヲ巧ナラス思フテ此ニ到レハ則此哲學一家言ノ著モ亦自ラ其大膽ナルニ驚カスンハ有ラサルナリ讀者諸君ニシテ幸ニ余カ微衷ノ存スル所ヲ了シ其誤謬ヲ正シ其缺漏ヲ補ヒ以テ吾人カ此一大盛時ニ際會セル所ノ天幸ヲ空フセス其至重至大ノ責任ヲ尽スヿヲ得ハ特ニ此哲學一家言ノ著者タル余一人ノ幸福ノミニ非ルナリ

明治四十年

著者識

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

タル所以ノ特性ヲ表示セサル可ラス此一
事物カ此一事物タル所以ノ特性ヲ表示ス
ル之ヲ表自的存立力ト謂フ第二ニ待他的
存立力トハ何ソヤ此一事物カ他ノ諸事物ト
ル所以ノ特性ヲ表示セムトスルニハ此一
事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ノ存立ニ待テ
之ト比較対照スルニ非レハ決シテ此一事
物カ此一事物タル所以ノ特性ヲ表示シテ
認識力ラシテ之ヲ認識セシムルヲ能ハス此
事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ノ存立ニ待テ
之ト比較対照シテ此一事物カ此一事物タ
ル所以ノ特性ヲ表示シ認識力ラシテ之ヲ
認識セシムルヲ待他的存立力ト謂フ第
三ニ反対的存立力トハ何ソヤ此一事物カ
此一事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ノ存立ニ
待テ之ト比較対照セムトスルハ此一事物
ハ此一事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ト互ニ
相遣レテ彼此判然区別有リ毫モ混淆錯雑
スル所無キニ非レハ決シテ此一事物ハ此
一事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ニ待テ之ト

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

只全宇宙一切万有ノ実在的原理タル開係自性（其）ノ甲乙両項ニ関シテ第一ニ甲項ヲ定メテ第二ニ甲項ヲ定メテ第三ニ甲乙両項倶ニ定メテ第四ニ甲乙両項ノ関係ヲ定メテ表定スルモノ四種ノ方面ヨリ観察スルニ於テハ主観的客観的相待的絶待的四種方面ヨリ観察スルニ於テハ理法的契合的表徳的感情的四種方面ヨリ観察スルニ於テハ智情信ノ四種作用又ハ此四種作用ノ各四種方面ヨリ観察スルニ於テハ智情信ノ

此一事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ノ存立ニ待テ始メテ此一事物ハ此一事物トシテ其特性ヲ表示スルヲ得ベシ又石ハ一草一木一禽一獣ト雖モ此一塵一砂ニ非ルハ無シ一草一木一禽一獣ハ此一塵一石ヲ離レテ生活スル能ハス此一塵一石ハ一草一木一禽一獣ヲ離レテ生長セシムル能ハス宇宙一切ノ有形ノ各事物ハ皆相依リ相待テ存立スルモノニシテ一事物ノ独リ存立スルヲ得ス

一歌トシテ生活セシムル能ハス地球ハ自転公転無ル可ラス地球無ル可ラス太陽無ル可ラス恒星空虚無ル可ラス又日月星辰無ル可ラス若シ夫レ一事物ノ存立ニ待テ始メテ存立スルモノアリトセンカ其ノ待テ存立スル所ノ他一切ノ各事物モ亦タ此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ノ存立ニ待テ始メテ存立スルモノナリ

則チ此一塵一石一草一木一禽一獣ハ決シテ一度モ存立スル能ハサルヲ知ラン

一石一草一木一禽一獣ト雖モ此一塵一砂ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ノ存立ニ待テ存立スルモノナリ

カ如シ此ノ如ク此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ノ存立ニ待テ存立スルニハ此一事物ト互ニ相反

カト謂フ等ニ反詰的存立カト謂フ等ニ反詰的存立カト謂フ等ニ反詰的存立

這ニテ彼此判然區別有リ毫モ混淆錯認スル所無キニ非レハ決シテ此一手物ハ此一手物ニ非ル他一切ノ各手物ニ得テ存立スル能ハサ

東京原紙製

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

小引

印度支那ヲ其他東洋諸國民ノ敬遠スル眞理ヲ合衆ニ古今ヲ通ジテ渝ラス而シテ其究ムル所ハ其形而上ニ於テ全ク方向ヲ同フセサルカ如シ天下ニ明ラカナラサルモノナシ今日ニ到リ今ヤ世界文藝ノ交通益々此ノ隔絶ヲ除キ東洋各國民中一人ノ缺ヲ振ヒ古今ノ智識ヲ融會貫通シテ一ノ新組織ヲ起シ東西ノ思想ヲ疏通シ第二ノ智識ヲ融會貫通シ第三ニ彼此ノ長短ヲ比較シ斯學ヲ研究シ其眞理ヲ探リ短ヲ捨テ長ヲ採リ其眞理ヲ探リ其目的ヲ為ス所ハ第一ニ東西ノ人類ヲシテ各其性ノ固有スル所ヲ發揮シ其天賦ノ良能ヲ盡サシメ以テ人生ノ幸福ヲ増進スルニ在リ而シテ其目的ヲ達スルノ方法ヲ講スルニ當リテハ先ツ宇宙ノ大眞理ヲ探究シ其眞理ニ基キテ人生ノ行爲ヲ定メ其行爲ニ基キテ人生ノ目的ヲ達スルノ方法ヲ講スルヲ以テ順序トス

明治十八年十二月　井上哲次郎識

其他東洋諸國民ノ哲学宗教中ニ往々
理ヲ含有スト雖モ地東西之ヲ隔テ時
不ルヤ勿ヤ其說明ノ盡形ニ
八盡形ニ於テ全ク
故ニ其眞理行ニ天下ニ明ラカナラ
至レリ今ヤ世界文藝ノ交通益ス此
ノ思想ヲ疏通シ古今ノ智識ヲ融會
西ノ思想ヲ疏通シ古今ノ智識ヲ融會
ル者亦キハ二十世紀ニ於ル
リ余自ラ量ラス茲ニ哲学一家言ヲ
撰擇折中シテ宇宙ノ大觀
ヲ拾フ
ヲ拾フ
ヲ拾フ

ヨフテ此ニ到レハ（日此）智子一家言ノ（者）備ヲモ而自ラ
其大膽ナルニ驚カスンハ有ラス（ましテ事）余カ微衷ノ存スル所ヲ了シ其（正シ）鉄備ヲ補ヒ以テ吾人カ此一（其主意大人ニ責任ヲ尽）ニ所ノ天幸ヲ空フセ（サル）ヲ有テハ特ニ此智子一家言ノ若（者）ク
福ノミニ止ルナリ

明治四十年

若者

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

小引

印度哲学別ニテ佛教中ニハ其高尚ナル真理ノ含有スト雖モ只之ヲ説ク所ノ経論等皆宗教的謎語若シクハ煩瑣的術語ノ解釈ニノミ汲々メタルカ為メニ其真理終ニ天下ニ明ラカナラス余之ヲ恨歎シ益ニ哲学神髄一巻ノ草ス蓋其精神骨髄ノ印度哲学別ニテ佛教ニ採リ欧洲哲学系統ノ式様ヲ假テ之ヲ講述セル者ナリ幸ニ本講述ニレテ東西ノ思想ヲ疏通シ古今ノ智識ノ融會スルノ一器具タルヲ得ル有ラハ余カ幸実ニ甚シト雖モ時古今有リ地東西ノ隔アリト雖モ其枝葉末節ニ至テハ則之ヲ現今欧羅巴ニ行ハル、所ノ名科学若シクハ哲学ニ折中スルニレテ足ラサルナリ故ニ本講述ハ東西ノ思想ヲ疏通シ古今ノ智識ヲ融會スルト同時ニ余一人ノ自由ナル意思ヲ以テ東西古今ノ思想ヲ取捨折中セ

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

ㇾ者ヌルヲ断言スルニ憚ラス隨テ本講述ノ結果カ果シテ真理ニ合スルヤ否ヤノ責ハ必スシモ伊藤ノ開祖ヌル釈迦牟尼佛陀ニ在ラスシテ余一人之ニ任スルヲ明言スルヲ憚ラス

明治四十年

著者識

東京帝国大学図書印

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

タル所以ノ特性ヲ表示セサル可ラス此一
事物カ此一事物タル
ル之ヲ表自的存立
存立力トハ何ソヤ此一事物カ此一事物タ
ル所以ノ特性ヲ表示セムトスルニハ此一
事物ニ非ル所ノ他ノ各事物ノ存立ニ待テ
姑メテ此一事物ハ此一事物トシテ其特性
ヲ表示スルヲ得ヘシ(一例ヲ挙ケハ)全宇宙一切万有中
塵一石一草一木一禽一獣トシテ
塵一石ヲシテ結晶セシメ此一草一木ヲシ
テ生長セシメ此一禽一獣ヲシテ生活セシ
ムル所ノ空気無ル可ラス日濕無ル可ラス
雨水無ル可ラス肥料無ル可ラス食物無ル
可ラス雨水無ル可ラス肥料無ル可ラス食
物無ル可ラス地球無ル可ラス地球ノ自轉
公轉無ル可ラス日晷系統無ル可ラス又日
晷系統ヲシテ日晷系統タラシムル所ノ恒
星遠鏡ノ天無ル可ラス若シ是等ノ中一
ヲ缺ケハ則此十塵十草十木十禽十獣

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

バ決シテ此ノ塵ノ如キ一草一木一禽一獣ト雖モ存在スル能ハサルヲ知ルヘシ

一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ノ存立ニ待テ存立シ認識カラルヽ之ノ認識セラルヽムル之ヲ待他的存立力ト謂フ第三ニ反對的存立力トハ何ヲヤ此一事物ヤ此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ノ存立ニ待テ存立シ認識カラルヽ之ノ認識セラルヽ存立セムトスルニ非ル所ノ他一切ノ各事物ト此一事物ト此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ト互ニ相反シテ彼此判然區別有リ毫モ混淆錯雜スル所無キヲ非ルハ決シテ此一事物ハ此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ニ因テ待テ存立スルヲ非ルハ決シテ此一事物ハ此一事物ニ非ル所ノ他一切ノ各事物ニ因テ待テ存立

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

哲学一家言提要

第一席　緒倫　研究ノ區分ニ就テ
第二席　歸納的研究ニ就テ
第三席　主記ト客記ニ就テ
第四席　主觀ト客觀ト、關係ニ就テ
第五席　關係自性ニ就テ
第六席　演繹的研究ニ就テ
第七席　理性ト悟性ト、關係ニ就テ
第八席　理性ト悟性トノ交互ト、關係ニ就テ
第九席　應用四箇哲学ニ就テ

第十席　應用四箇哲学ニ就テ
第十一席　倫理哲学ニ就テ
第十二席　形而上学ニ就テ
第十三席　審美哲学ニ就テ
第十四席　宗教哲学ニ就テ
第十五席　哲学研究ノ結果ニ就テ

東京帝國大學

国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071

附錄

哲学系統圖解

昌三と哲学一家言の附錄として掲載し
たのであるが哲学一家言俗解と後
に前後一と通り見活して置かう後ん
でも引き合せて読むと言
ふ陋(ろう)から易い(やさ)と思ふならやはり附
錄として附け加へて置いたのである
ら其積りで必ず見落すなやうに致
しませう

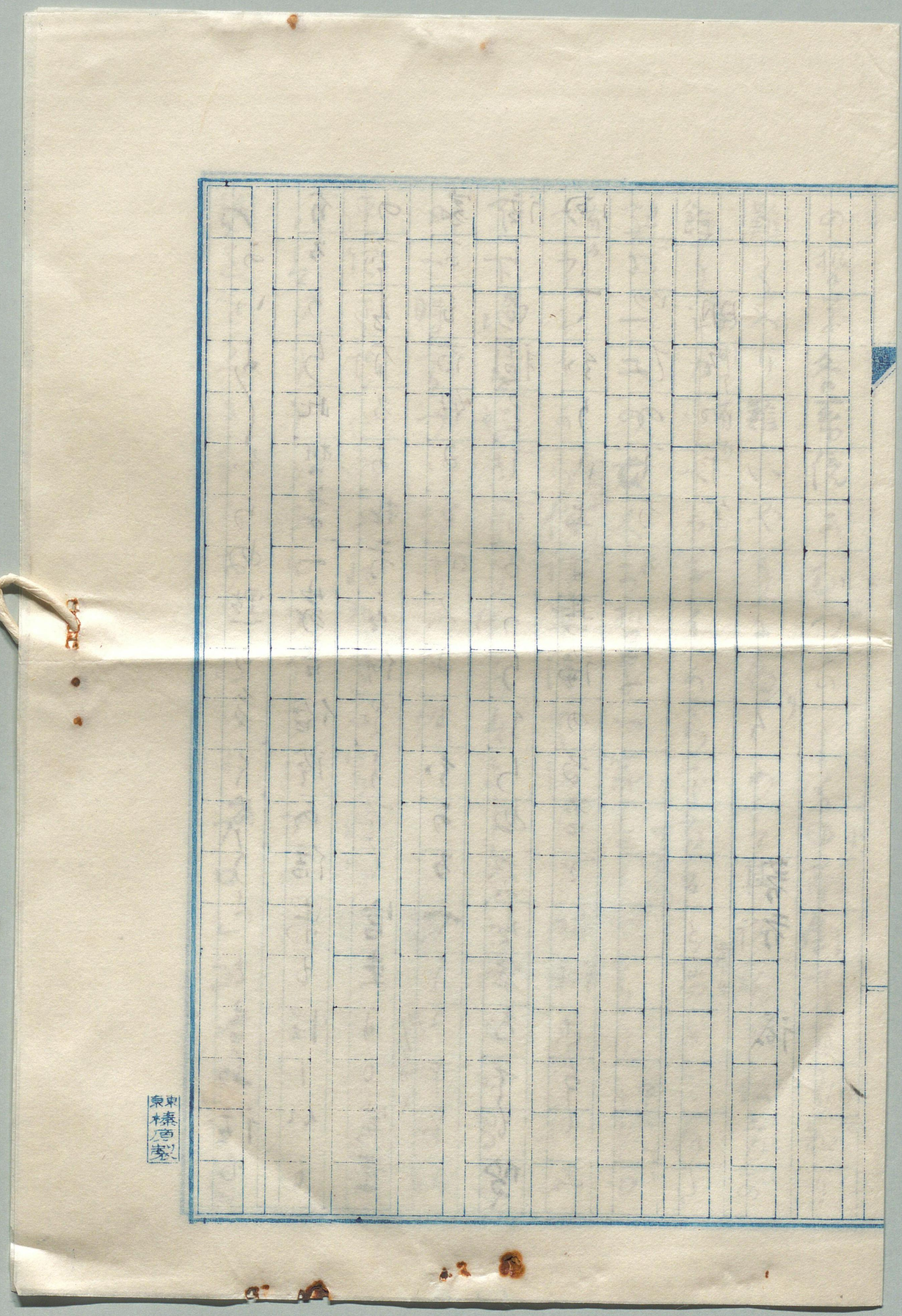
東京帝國大學
東洋文化研究所

国立国会図書館　渡辺国武関係文書(その2) 1071

緒言

首揚冗のカントの「クリテック、デル、ライン、フェルニューンフト」と言ふ書物を出すまでは世界は其趣意を誤解するもののみ多く困りきると言ふまでロレゴメナ」と簡単な書物を著すに至つて又此有るの批者の先きよ哲学一家言(各様)と云ふのを甚だしい全く趣意の違よて居る批者の考て居る哲学を言ふ学問を官吏(自尺)でも実業家でも自然科学者でも町人でも安心立命のために知らねばならぬ同で有るのを従来

の哲学各系統のむづかしい一くの面倒で有(中々)知り
難く入り難いやうな(而)のを其後(の)仕方の
許り(而)して有るべきまゐうらで有ると思ふて有ます
ふ一二の(最サー)人が哲学一点張で俗談平語で(の)話ーて当れと言ふの
べきまゐうら俗談平語で下地を好きまり御(の)(而)下カ少
日一時(の)つぶい思ひつきの講話ーさの(の)
連(の)ぜられのが此哲学一点張で家(も)俗談て有るカン
トをクリチックデルニヌーンフトの
語をよーで十六日の(の)毎
ふらせられめよ「プロレゴメナ」と(の)
東京帝国大学



国立国会図書館　渡辺国武関係文書（その2）1071